

2025

SUPER GT
RACE REPORT

Rd.7

10.18[sat] - 19[sun]

[place] オートポリス (大分県日田市)

[weather] [sat] 晴れのち雨 / [sun] 雨のち曇り

[spectators] 26,000人 ([sat] 10,000人 / [sun] 16,000人)

AUTOPOLIS



Rd.1	OKAYAMA >>>>	APR 12-13
Rd.2	FUJI >>>>>>>>	MAY 03-04
Rd.3	SEPANG >>>>>>	JUN 27-28
Rd.4	FUJI >>>>>>>>	AUG 02-03
Rd.5	SUZUKA >>>>>>	AUG 23-24
Rd.6	SUGO >>>>>>>>	SEP 20-21
Rd.7	AUTOPOLIS >>>	OCT 18-19
Rd.8	MOTEGI >>>>>>	NOV 01-02

TOM'S



2025 AUTOBACS SUPER GT Round7 AUTOPOLIS GT 3Hours RACEが、10月18日(土)、19日(日)にオートポリスで行われた。#37 Deloitte TOM'S GR Supra(笹原右京/ジュリアーノ・アレジ)は、6番グリッドから一時トップを快走し、中盤も安定したペースで周回を重ねていたが、残り1時間を切ったところでエンジンパワーがダウンするアクシデントに見舞われ、悔しいリタイアを余儀なくされた。



37

TGR TEAM Deloitte TOM'S



Rd.7 Result

Qualifying	6 位	Driver Standings	6 位
Race	DNF	Team Standings	6 位

Qualifying 1	笹原 : P6 / 1'33.145
--------------	--------------------

Qualifying 2	アレジ : P6 / 1'41.579
--------------	---------------------

Race	笹原 : 1'36.815
ファステストラップタイム	アレジ : 1'39.845

QUALIFYING

天候：曇りのち雨／気温：21℃／路面温度：23℃



不安定な天候のなか、 力強い走りを披露。 6番手で決勝に臨む。

シーズン7戦目となる今大会は、サクセスウェイトが半減し、ドライバーズポイント1点につき1kgを各車が背負う。37号車は44kgとなり、燃料リストラクター制限がなくなった。また、チャンピオン争いを考えるとオートポリスで高得点を獲得し、最終戦に向けて少しでも有利な状態に持ち込みたいところ。37号車のメンバーも気合いが入っていた。

予選日の天候は不安定で時折、雨がパラつくなか、GT300クラスで中断があったため、予定の時刻よりも遅れてQ1が始まった。いつ雨が強くなるか分からない状況のなかで笹原がタイムアタック。5番手でQ2進出を果たした。

続いてアレジの出番だったが、Q2が始まる直前に雨が本降りとなり、路面が濡れ始めた。アレジはウェットタイヤを装着してコースインし、最終的に6番手のタイムを記録した。ライバルの先行を許したが、逆転の可能性が十分にあるポジションから、決勝レースに臨む。

Race

天候：曇り／気温：22℃／路面温度：25℃

好ペースで追い上げ、 一時トップを快走するも、 アクシデントに見舞われ悔しい結果に。



今回は3時間レースのため、途中2度のピットストップが必要となる。6番グリッドの37号車は、笹原がスタートを担当。序盤にセーフティカーが導入される場面があったが、17周目にレースが再開されると次々に前のマシンを捉えていき、28周目にトップに浮上。そのまま後続を引き離す勢いをみせた。

35周目に1回目のピットストップを行い、笹原が継続して第2スティントも担当。異なる戦略をとったライバルにトップを奪われたが、すぐに背後につけ、チャンスをうかがいながら周回を重ねた。

残り1時間10分を切った61周目に2度目のピットストップを行い、笹原からアレジに交代。GT300と混走しながら激しいポジション争いを繰り広げた。しかし、残り1時間を切った66周目に急激にペースが落ち、緊急ピットイン。フロントの吸気口に付着した草やゴミを取り除いたが症状は改善されず、70周目に再びピットに戻ってリタイヤを選択した。



良いレースをしていただけに
悔しいオートボリス大会でした。

ドライバー 笹原 右京

今回はクルマが素晴らしく速く、うまくタイヤをコントロールしながら追いつけることができました。第1スティントはすごく良かったのですが、第2スティントでは別の作戦をとっていたライバルに先行される展開となりました。最終的に逆転できると信じていたので、無理に争わずに燃費のセーブを意識していました。アクシデントに関しては残念ですが、原因をしっかりと調べる必要があります。



リタイアは残念だが、
これがレースです。

ドライバー ジュリアーノ・アレジ

右京が素晴らしい走りをしていてくれたので、その流れで僕も良い走りをしていただいていたのですが、エンジンのパワーがダウンするアクシデントに見舞われました。ペースが良くても悪くても、結果が残らないと意味がないのでそこは残念です。でも、これがレースです。チャンピオン獲得の可能性はかなり難しくなりましたが、最終戦はいつもと変わらずトップを目指すだけなので、いい戦いができるように頑張りたいです。



チーム監督 ミハエル・クルム

残念という気持ちが大きいです。スタートから右京が素晴らしい走りをしてトップに立ってくれましたし、作戦もすごく良かった。中盤はライバルが先行していましたが、最終的にトップに戻る自信があったので、3番手に下がっても焦らずにレースができていました。ただ、エンジンのパワーが上がらないトラブルが出て、ピットに戻す選択をしました。



チームオーナー 舘 信秀

今回の37号車は非常にペースが良かったですし、1号車も順位を上げてきていて、先週のスーパーフォーミュラに続いて、TOM'Sのワンツーフィニッシュに期待していました。詳しいことは調べなければいけませんが、ゴミや芝生の草が詰まってパワーが上がらない症状が起きました。リタイアになったことは残念ですが、最終戦が面白くなったと思っています。もてぎでは良い走りができるように精一杯頑張ります。次戦も、たくさんの応援をよろしくお願いいたします。

Deloitte.

BINGO

YET-FORME

ZENT

GR TOYOTA GAZOO Racing

TGR-D

BRIDGESTONE

OKANO Express

ほうらいせん
www.houraisen.co.jp

ISSE

BRIDE

貝山

S&D TAMA GROUP

AUTHOR

PARTS.CO.JP

ENKEI

ThreeBond

HRX

Mizuno

MECHANIX WEAR